
Create!Form Magicfolder

アップデートマニュアル (V11)

2018年8月
インフォテック株式会社

目次

| | | |
|-------|---|----|
| 第 1 章 | はじめに | 1 |
| 第 2 章 | 旧バージョンの Create!Form Magicfolder からのアップデート | 2 |
| 2.1 | 互換性の概要 | 2 |
| 2.2 | アップデートの手順 | 7 |
| 第 3 章 | その他 | 14 |
| 3.1 | 導入ディレクトリ | 14 |
| 第 4 章 | おわりに | 16 |

第 1 章

はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のものと互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または利用技術の変化や市場のニーズに追従させる事などの目的で改良を行いますが、この改良を行う時には、従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

第 2 章

旧バージョンの Create!Form Magicfolder からのアップデート

Create!Form Magicfolder は、旧バージョンの Create!Form Magicfolder から設定を引き継いで利用することができます。

ここでは、旧バージョンの Create!Form Magicfolder からのアップデートについて記載します。

2.1 互換性の概要

アップデートにおいて基本的には互換性がありますが、一部の仕様が変更された影響により、そのままでは実行時にエラーが発生したり、出力結果に差異を生じる場合があります。ここでは、アップデートによって互換性に影響する仕様の変更点について記載します。

1. フィルタ機能のパラメータ
2. ルール機能の区切り文字の扱い
3. 作業ディレクトリの配置場所
4. フィルタ機能の名称と最大登録数
5. ルール機能による作業ディレクトリの指定
6. パラメータの展開内容
7. 監視フォルダの処理順序
8. *Windows* サービス名
9. ジョブの有効期限 (保存期間) の設定

2.1.1 フィルタ機能のパラメータ

【対象バージョン】

V7、V8

【内容】

V8 以前からアップデートする場合、フィルタ機能で 사용할 ことができるパラメータは以下のパラメータに置き換わります。

| アップデート前 | アップデート後 |
|---------|-------------------------|
| %in | \${in} |
| %out | \${out} |
| %mfd | mfd ファイルのファイル名 (拡張子を含む) |
| %dopt | \${cf.opt.D} |
| %sopt | \${cf.opt.s} |

【対処】

アップデート後に mfd ファイルのファイル名ではなく、監視フォルダ設定ファイルのフルパスを参照する必要がある場合は、展開された「mfd ファイルのファイル名」を「ユーザー設定ディレクトリ /sites/(監視フォルダ設定ファイル名)」に置き換えてください。

2.1.2 ルール機能の区切り文字の扱い

【対象バージョン】

V9、V10.03 以前

【内容】

V11 の初期設定では、監視フォルダのルール機能の区切り文字をファイル名の先頭や末尾および連続して使用した場合、1 つのパラメータの項目として認識します。

【対処】

従来のようにファイル名の先頭や末尾および連続した区切り文字を 1 つのパラメータの項目として扱いたくない場合は、監視フォルダ設定の拡張設定へ「ext.filename.token」を「false」に設定してください。

2.1.3 作業ディレクトリの配置場所

【対象バージョン】

V7、V8、V9、V10

【内容】

V11 では帳票資源ディレクトリの直下に配置した作業ディレクトリのみが Create!Form Magicfolder から利用可能となります。帳票資源ディレクトリにサブディレクトリを作成し、サブディレクトリ内に配置した作業ディレクトリや、帳票資源ディレクトリ以外のディレクトリに配置した作業ディレクトリは Create!Form Magicfolder から利用できません。

【対処】

帳票資源ディレクトリの直下に作業ディレクトリを配置してください。

帳票資源ディレクトリは、帳票一覧画面から確認することができます。

2.1.4 フィルタ機能の名称と最大登録数

【対象バージョン】

V7、V8、V9、V10

【内容】

フィルタ機能の名称は以下のように変更されます。

| アップデート前 | アップデート後 |
|---------|----------------|
| 前処理フィルタ | フィルタ (ファイル検知時) |
| - | フィルタ (実行前) |
| 後処理フィルタ | フィルタ (実行後) |

また、フィルタの最大登録数も変更されています。「フィルタ (ファイル検知時)」は V9 以降と同様に最大登録数が 10 個ですが、「フィルタ (実行前)」と「フィルタ (実行後)」については内部でフィルタが 1 個予約されているため、最大登録数が 9 個となります。

【対処】

「フィルタ (実行後)」で 10 個のフィルタを登録したい場合は、フィルタを処理するための監視フォルダ設定を用意して監視フォルダが 2 段構成となるように登録します。ここでは既存の監視フォルダを 1 段目、

フィルタを処理するためだけの監視フォルダを2段目として説明します。

2段目の監視フォルダ設定の実行モードは「-」に設定して Create!Form ランタイムを実行しない設定とし、処理したいフィルタを登録します。1段目の監視フォルダ設定の「フィルタ (実行後)」では、プログラム実行のフィルタとパラメータ「\${in}」を使用して入力データファイルが2段目の監視フォルダへコピーされるように設定します。このように設定することで、1段目の監視フォルダの処理が終わった後で入力データファイルが2段目の監視フォルダへコピーされ、2段目の監視フォルダでフィルタのみが処理されるようになります。

2.1.5 ルール機能による作業ディレクトリの指定

[対象バージョン]

V7、V8、V9、V10

[内容]

作業ディレクトリの配置場所の仕様が変更された影響により、ルール機能を使用して作業ディレクトリ (アノテーションによるパラメータ「**cf.opt.D**」の指定を含む) を変更する際は、作業ディレクトリのフルパス部分は無視され、ディレクトリ名のみが使用されます。

[対処]

作業ディレクトリは V10 以前と同様にフルパスで指定することも可能ですが、ディレクトリ名のみが使用されるため、指定したディレクトリ名 (作業ディレクトリ) が帳票資源ディレクトリに配置されている必要があります。また、V11 ではフルパスによる指定のほか、ディレクトリ名のみ指定にも対応しています。

2.1.6 パラメータの展開内容

[対象バージョン]

V7、V8、V9、V10

[内容]

フィルタ機能やエラー処理で利用可能なパラメータの展開内容は以下のように変更されます。

| パラメータ | アップデート前 | アップデート後 |
|-----------------|---------------|-------------------|
| job.form.name | ジョブファイルの帳票名 | 帳票情報画面で設定した帳票名 *1 |
| mf.directory.id | 監視フォルダ設定ファイル名 | 監視フォルダ ID |

*1 帳票情報画面で帳票名を変更していない場合はジョブファイルの帳票名となります。

【対処】

job.form.name

帳票一覧画面から帳票情報画面を表示し、帳票名を変更してください。

mf.directory.id

監視フォルダ設定ファイル名を展開するためのパラメータは存在しないため、監視フォルダ ID を固定で直接指定してください。

2.1.7 監視フォルダの処理順序

【対象バージョン】

V7、V8、V9、V10

【内容】

V11 では、データファイルの処理順序として「投入順」または「コピー完了順」から指定できます。「投入順」では、監視フォルダへデータファイルを投入した順に処理を行います。一方の「コピー完了順」では、監視フォルダへコピーされたデータファイルのうち、コピーが早く完了したデータファイルから先に処理を行います。

V10 以前は「コピー完了順」で処理を行っていましたが、V11 の初期設定では「投入順」で処理が行われます。

【対処】

監視フォルダ設定画面の監視フォルダ共通設定ダイアログからデータファイルの処理順序を「コピー完了順」に変更することで V10 以前と同様の処理となります。

2.1.8 Windows サービス名

【対象バージョン】

V9、V10

【内容】

Windows のサービスの名称は以下のように変更されます。(括弧内の名称はサービスモジュール名)

| アップデート前 | アップデート後 |
|--|--|
| Create! FormMagicfolder V10 (magicfolderd10) *2 | Create!Form Commons Container Service V11 (cfccd11) |

【対処】

Create!Form Magicfolder のサービスの制御を行う場合は、ホーム画面の状態のボタンまたは「プログラムディレクトリ /bin」に配置されている「magicfolder.bat」のコマンドから制御します。

Windows サービスのログオンアカウントの変更を行う場合は、「Create!Form Commons Container Service V11」のログオンアカウントを変更してください。

2.1.9 ジョブの有効期限 (保存期間) の設定**【対象バージョン】**

V9、V10

【内容】

Magicfolder と RemoteObject のジョブを連携させる場合はジョブの有効期限の設定が必要となります。

V10 以前は設定ファイル「cfmf-server.properties」へ「job.available」を追加してジョブの有効期限を設定していましたが、V11 ではジョブ設定画面の実行済みジョブの有効期限から設定を行うように変更されています。

【対処】

設定ファイル「cfmf-server.properties」の「job.available」に設定していた値^{*3}をジョブ設定画面の実行済みジョブの有効期限に設定します。

2.2 アップデートの手順

アップデートは、以下の手順に従って行います。

1. アップデートツールによる帳票資源ファイルのアップデート
2. 帳票資源ディレクトリへの帳票の配置
3. 帳票の出力先ディレクトリやプリンタドライバの準備

*2 V9 の場合は Create! FormMagicfolder V9 (magicfolderd) です。

*3 「-1」の場合は無期限を表します。

4. フィルタプログラムの移行
5. 監視フォルダ設定ファイルのインポート
6. ジョブの有効期限の設定 (V9 以降かつ Magicfolder と RemoteObject のジョブを連携させる場合のみ)

1. アップデートツールによる帳票資源ファイルのアップデート

旧バージョンの Create!Form ランタイムで使用していた帳票資源ファイルをアップデートします。

帳票資源ファイルのアップデートは、Create!Form Design 製品に付属のアップデートツールを使用します。詳しくは、Create!Form 帳票サポートサイトの「技術資料」にある「Create!FormV11 アップデートマニュアル」をご覧ください。

2. 帳票資源ディレクトリへの帳票の配置

帳票資源ファイルのアップデートが完了しましたら、Create!Form Magicfolder の帳票資源ディレクトリへアップデートした帳票資源ファイルを配置します。

帳票資源ファイルは「form」「datamap」「style」のサブディレクトリを含む作業ディレクトリをそのまま帳票資源ディレクトリへ配置します。

例えば、アップデートした帳票資源ファイルの作業ディレクトリが「DetailedStatement」の場合、以下のようなディレクトリ構成で配置します。

```
(帳票資源ディレクトリ)
+- [DetailedStatement]
  +- [form]
  +- [datamap]
  +- [style]
```

帳票資源ディレクトリは、帳票一覧画面から確認することができます。

3. 帳票の出力先ディレクトリやプリンタドライバの準備

帳票資源ディレクトリへの帳票の配置が完了しましたら、帳票の出力先のディレクトリやプリンタドライバを準備します。

PDF ファイルを任意のディレクトリへ出力する場合は、アップデート元と同じ出力先ディレクトリを作成します。また、任意のプリンタへ印刷する場合は、アップデート元と同じプリンタドライバをインストールし、プリンタへの印刷を可能な状態にします。

4. フィルタプログラムの移行

旧バージョンの Create!Form Magicfolder のフィルタやエラー処理の「プログラム実行」にて個別開発したフィルタプログラムを使用している場合、フィルタプログラムを移行先の環境へコピーします。なお、移行時

に移行元の環境と異なるディレクトリパス上に配置する場合は、次の「5」を実施した後でフィルタやエラー処理の「プログラム実行」の実行コマンドのパスを移行先のパスに変更してください。

5. 監視フォルダ設定ファイルのインポート

フィルタプログラムの移行が完了しましたら、監視フォルダ設定ファイルのインポートを行います。

まずは、インポートする監視フォルダ設定ファイルが配置されているディレクトリを確認します。

Create!Form Magicfolder V8 以前からアップデートする場合：

導入ディレクトリの直下にある「**mfd**」ディレクトリを使用します。

Create!Form Magicfolder V9 以降からアップデートする場合：

導入ディレクトリの直下にある「**sites**」ディレクトリを使用します。

上記のディレクトリから Create!Form Magicfolder へアクセス可能なクライアントマシンなどへ監視フォルダ設定ファイルをコピーしておきます。

クライアントマシンから Create!Form Magicfolder へアクセスし、監視フォルダ設定画面を表示します。

注意： Internet Explorer 11 を使用して Create!Form Magicfolder へアクセスする際は、Web ブラウザへサーバの「IP アドレス」を指定してアクセスしてください。「localhost」や「サーバのホスト名」を指定してアクセスする場合、監視フォルダ設定ファイルが正しくインポートされないため、以下のセキュリティ設定の変更が必要となります。

1. Internet Explorer 11 のメニュー [ツール]-[インターネット オプション] をクリックします。
2. インターネットオプションのダイアログが表示されるので、[セキュリティ] タブをクリックします。
3. [ローカルイントラネット] をクリックし、[レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。
4. [その他]-[サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める] を [無効にする] に変更します。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. 警告ダイアログが表示されるので [はい] ボタンをクリックします。
7. インターネットオプションのダイアログの [OK] ボタンをクリックします。

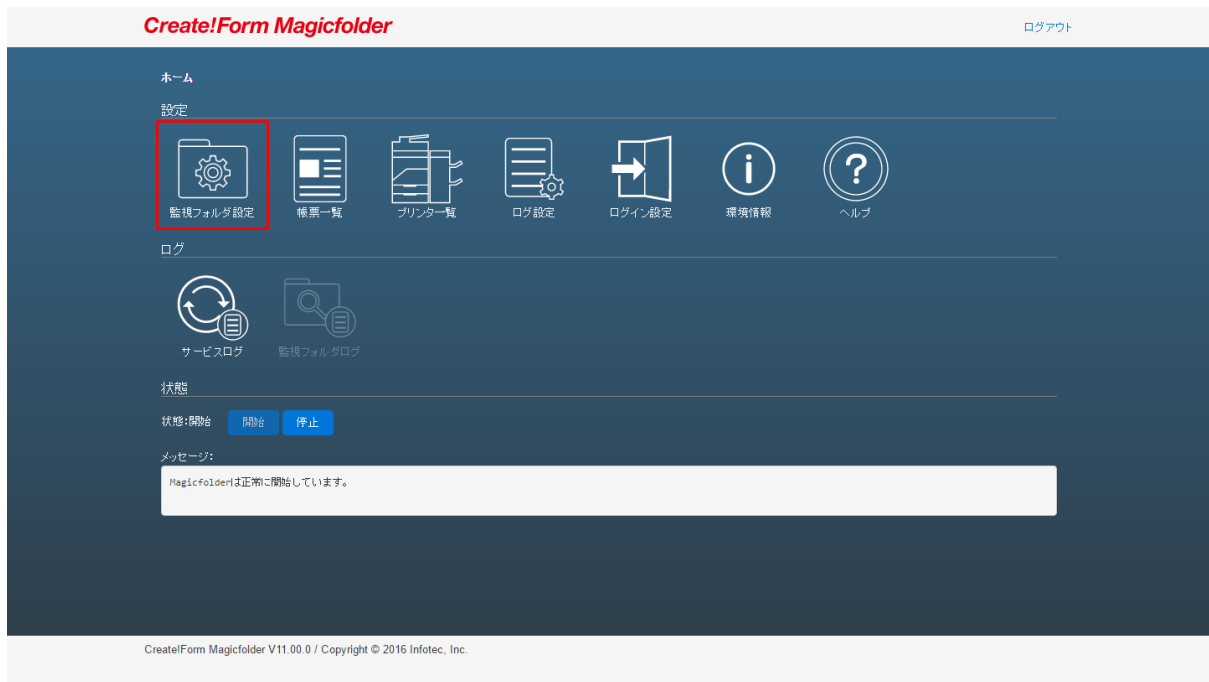


図 2.1 ホーム画面

「監視フォルダを追加する」ボタンをクリックし、監視フォルダ登録ダイアログの右下にある「監視フォルダ設定ファイルをインポートする」をクリックします。



図 2.2 監視フォルダ設定画面

ファイル選択ボタンが表示されるので、クライアントマシンへコピーした監視フォルダ設定ファイルを指定

し、「インポート」ボタンをクリックします。

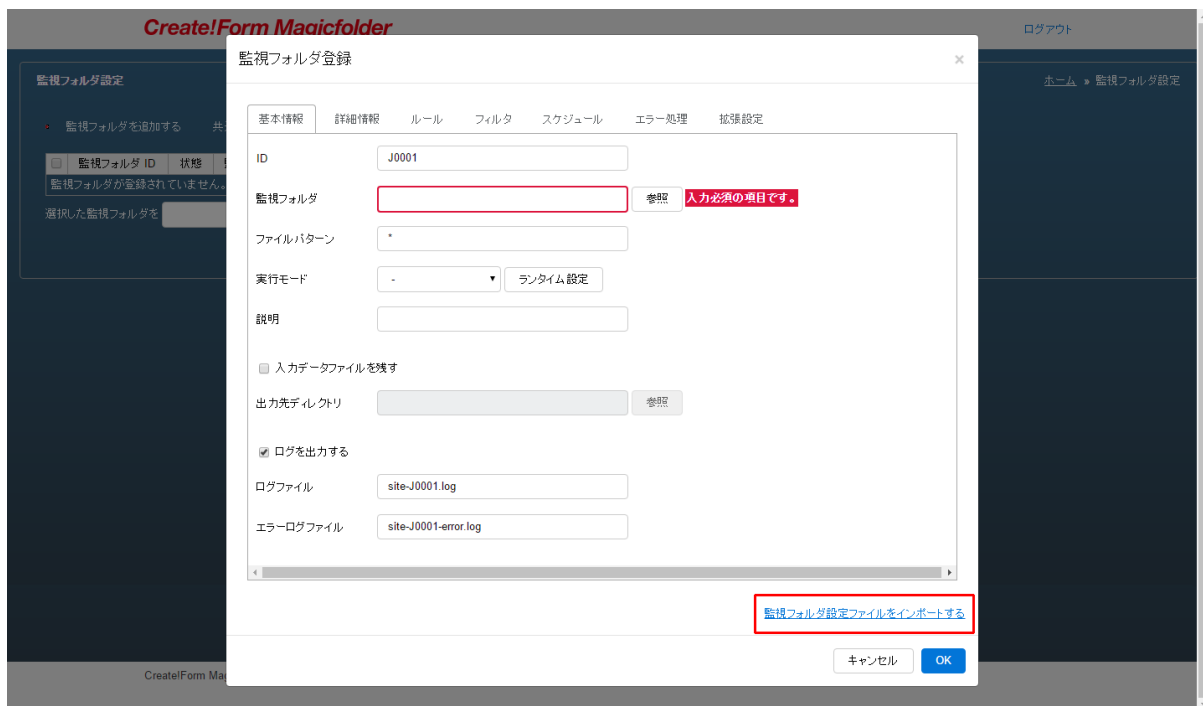


図 2.3 監視フォルダ登録ダイアログ

インポートが成功すると、監視フォルダパス、ランタイム設定、ルール、フィルタなどの設定が監視フォルダ登録ダイアログへ表示されます。そのまま「OK」ボタンで監視フォルダを追加します。

インポートする監視フォルダ設定ファイルが複数存在する場合は、ファイルの数だけインポートの操作を繰り返し行ってください。

6. ジョブの有効期限の設定 (V9 以降かつ Magicfolder と RemoteObject のジョブを連携させる場合のみ)

V9 以降を利用しており Magicfolder と RemoteObject のジョブを連携させる場合はジョブの有効期限の設定を行います。

旧バージョンの Create!Form Magicfolder の導入ディレクトリ直下にある「conf」ディレクトリの「cfmf-server.properties」ファイルを開きます。

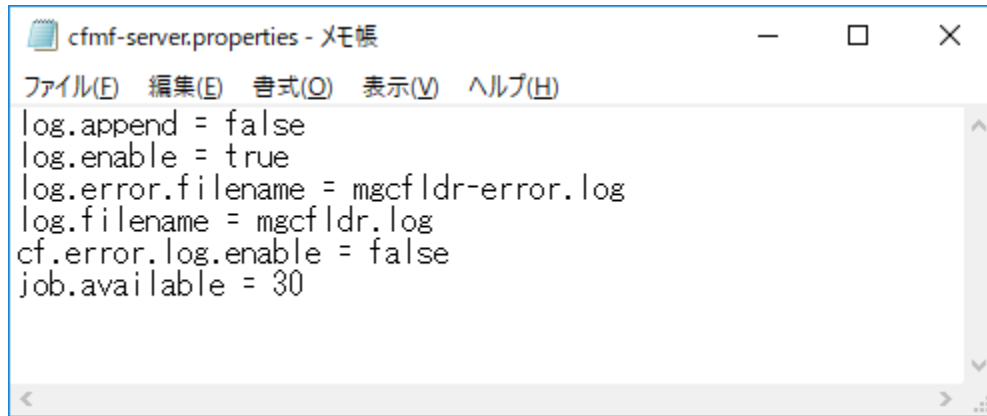


図 2.4 cfmf-server.properties ファイル

「job.available」の値を確認します。値が設定されていない場合は Magicfolder と RemoteObject のジョブは連携されていないため本手順のジョブの有効期限の設定は不要です。

クライアントマシンから Create!Form Magicfolder へアクセスし、ジョブ設定画面^{*4}を表示します。

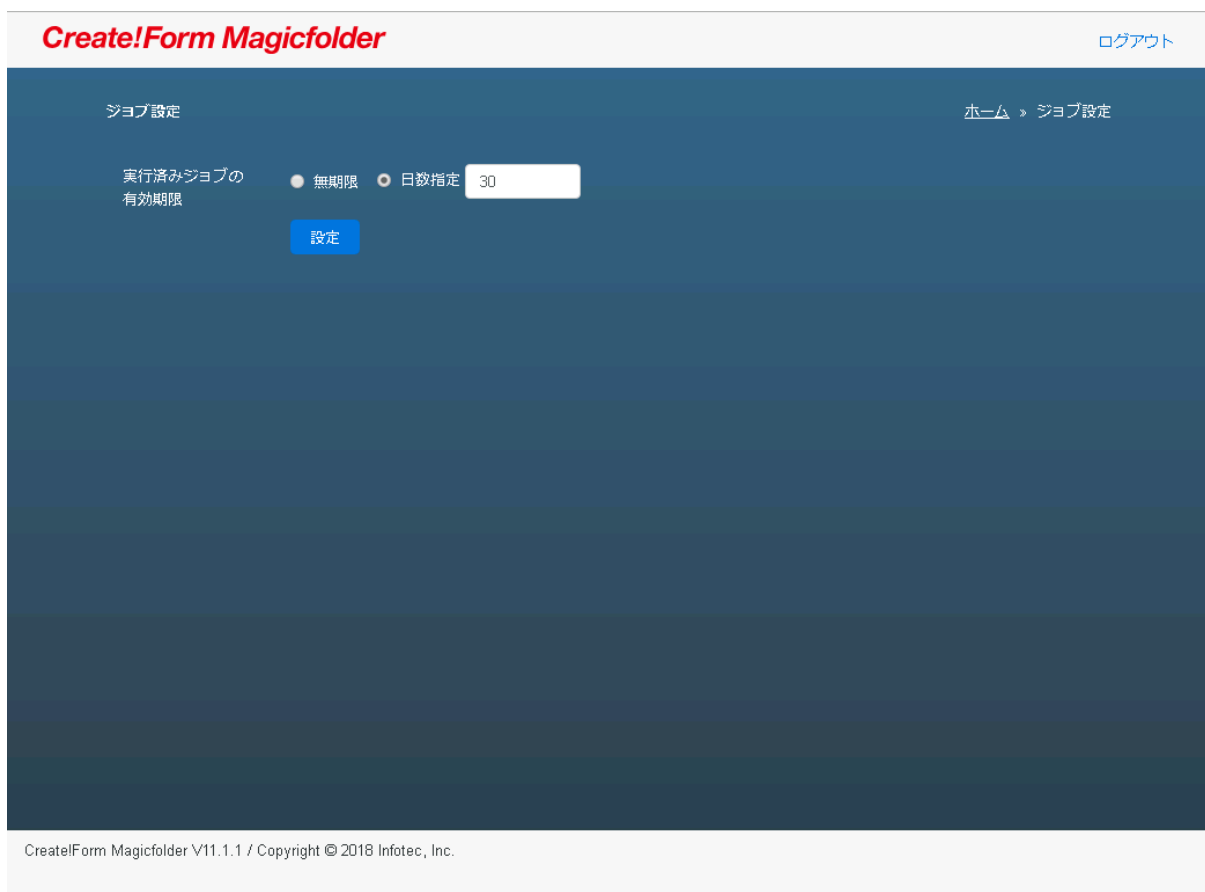


図 2.5 ジョブ設定画面

*4 ホーム画面にジョブ設定が表示されていない場合は Create!Form RemoteObject をインストールしてください。

先ほど確認した「job.available」の値を実行済みジョブの有効期限に設定します。「-1」の場合は「無期限」として設定します。

「設定」 ボタンをクリックして 「保存して再起動する」 ボタンで設定を反映させます。

以上で旧バージョンの Create!Form Magicfolder からのアップデートは完了です。監視フォルダの監視状態を「開始」に変更し、監視フォルダへ入力データファイルを投入して帳票が出力されることを確認してください。

ヒント：監視フォルダパスにネットワークドライブが指定されている場合、ログオンアカウントの変更が必要になります。詳しくは Create!Form Magicfolder に付属のヘルプの「**4. 機能説明**」にある「ログオンアカウントの変更」をご覧ください。

第 3 章

その他

3.1 導入ディレクトリ

3.1.1 プログラムディレクトリ

製品実行時に必要なプログラムモジュールファイルが格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\Program Files (x86)\Infotec\CreateForm\11
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ
```

3.1.2 ユーザー設定ディレクトリ

製品実行時に必要な設定ファイル、製品実行時に変更されるファイルが格納されるディレクトリです。ini ファイル、ログ設定用ファイル、QDF ファイル、データ編集定義ファイル、フォント情報定義ファイル、カラーパレットファイル、印刷詳細設定ファイル、PDF セキュリティ設定ファイルなどが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境


```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\private
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/conf
```

3.1.3 ユーザーデータディレクトリ

Create!Form により作成されるファイルが格納されるディレクトリです。実行ログ、ストレージなどのデータが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/var
```

3.1.4 帳票資源ディレクトリ

Create!Form Magicfolder で使用する帳票資源ファイルが格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work\jobs
```

Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/work/jobs
```

第 4 章

おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form Magicfolder

アップデートマニュアル (V11)

発行日 2018 年 09 月 13 日 [第 4 版]

発行者 インフォテック株式会社